

場所・面積 神奈川県秦野市、11.52ha

管理目的 葛葉緑地という身近な環境資源を活用し、自然観察や環境教育を通じて、市民または団体に対して、自然環境の保全意識と実践活動の輪を広げ、生物多様性保全に貢献することを目的とする。

サイト概要 葛葉緑地は、面積約17ha、蛇行して流れる葛葉川に沿ってあり、1987年（昭和62年）3月に「かながわのナショナル・トラスト緑地第1号」に指定された場所。

葛葉川によって深く刻まれた台地が深い峡谷となっており、その高低差は30mにも及ぶ。それによって作られた急峻な斜面は豊かな樹林におおわれ、市街地における貴重な緑地帯となって多様な動植物（植物600種以上）が生息している。拠点施設である「秦野市くずはの家」では、職員と多くのボランティアスタッフが協力し、その豊かな自然環境の保全や教育普及活動を進めている。



土地利用の変遷 水田・栗林・薪炭林として利用されてきた葛葉川沿いの河畔林において、開発計画を発端に緑地保全のため、1987年（昭和62年）3月「かながわのナショナル・トラスト緑地第1号」に認定された。1998年（平成10年）に、「秦野市くずはの家」を拠点施設とする「くずはの広場」が整備され、緑地の管理をしている。

サイト周辺の環境 神奈川県秦野市の葛葉川、金目川、水無川による複合扇状地の扇中央に位置し、市街化区域内にあるにもかかわらず、急峻な峡谷のため、自然豊かな河畔林が残された。周囲は住宅に囲まれていて、峡谷に下ると景観が一変する。葛葉川は、葛葉緑地内の上流では河川水が伏流し、下流では峡谷からの湧水によって水量が増す。葛葉緑地内には、豊富な湧水を利用して、1890年（明治23年）に給水を開始した曾屋水道の水源がある。

アピールポイント 葛葉川や地層の露頭があり、水辺と河畔林といった多彩な自然環境に多様な生物がいることから、地域や学校の環境教育・自然観察の場となっているほか、ボランティア（えのきの会）によって、毎月自然観察会も開催されている。またサイト管理においても、ボランティアの会があり、くずはの広場管理計画に基づいて、緑地の特性に応じた管理をしている。住宅地の中にあるので、身近な憩いや癒しの場所となっている。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

河川に沿って利用されていた旧水田と湧水路があり、低茎草地となるよう整備されている。それに続く斜面林はかつての薪炭林で二次林である落葉広葉樹林となっている。

【主な植生】

旧水田：ミゾソバ、セリ、低茎のイネ科などの草本群落、ハンノキ林（植栽）

斜面林：クヌギ、コナラ、イヌシデ等の落葉広葉樹林、アオキ、アズマネザサなどの低木林、林縁の草本群落

【確認された主な動植物】

旧水田：

ゲンジボタル (*Luciola cruciata* Motschulsky, 1854 成・幼) 1989年、秦野市今泉地区の水田（現在のいまいずみほたる公園）より移入し、以降自然発生している。

オニヤンマ (*Anotogaster sieboldii* Sélys, 1854 成・幼)

アカハライモリ (*Cynops pyrrhogaster* Boie, 1826 成・幼) 2006年に秦野市名古木小深沢より移入し、以降生息数及び生息域を拡大している。域内の水路及び池にて繁殖。

ヤマアカガエル (*Rana ornativentris* Werner, 1903 成・幼)

サワガニ (*Geothelphusa dehaani* White, 1847 成・幼)

ハンノキ (*Alnus japonica* (Thunb.) Steud., 1840) 2007年に購入により植栽。

斜面林：

ギンラン (*Cephalanthera erecta* (Thunb.) Blume var. *erecta*)

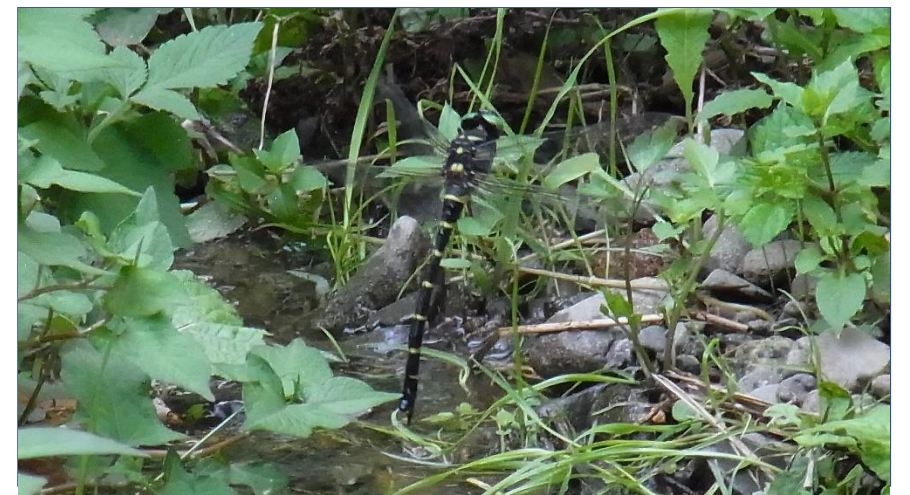
ツミ (*Accipiter gularis* (Temminck & Schlegel, 1844) 成)

ホンドタヌキ (*Nyctereutes viverrinus viverrinus* (Temminck, 1838) 成)

ニホンアナグマ (*Meles anakuma* Temminck, 1842 成・幼)



写真の撮影年月：2023年4月14日
写真の説明：旧水田と湧水路のあるハンノキ林



写真の撮影年月：2017年9月9日
写真の説明：水路に産卵するオニヤンマ

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

市街地に残された緑地の中心を自然河岸で自由曲流する葛葉川が流れており、多くの市民が川遊びなどの自然体験に訪れる。緑地の拠点施設くずはの家周辺では、草地や様々な樹種を植栽した学習林があり、多様な昆虫・野鳥等が生息したり生活の場としている。野鳥の巣箱を設置し、市民が身近に自然を観察できるよう配慮している。1坪ほどの人工池（ビオトープ）があり、カエル類やアカハライモリの繁殖場所となっている。

【主な植生】

河川：ツルヨシなどの湿生植物

草地：草本類やチガヤ・ススキ・オギなどからなるイネ科群落

学習林：落葉広葉樹を中心とした植栽林

人工池：アサザ、エビモ、セリ、セキショウなどの水生植物が植栽されている。

【確認された主な動植物】

河川：アブラハヤ (*Rhynchocypris lagowskii steindachneri* Sauvage, 1883 成-幼)

カジカガエル (*Buergeria buergeri* (Temminck & Schlegel, 1838) 成・幼)

カワセミ (*Alcedo atthis* Linnaeus, 1758 成)

草地：ショウリョウバッタ (*Acrida cinerea* (Thunberg, 1815) 成・幼)

オオトリノフンダマシ (*Cyrtarachne akirai* Tanikawa, 2013 成・幼)

アオジ (*Emberiza spodocephala* Pallas, 1776 成)

学習林：カブトムシ (*Trypoxylus dichotomus* (L. 1771) 成・幼)

シジュウカラ (*Parus minor* (Temminck & Schlegel, 1848) 成・幼)

人工池：ヤマアカガエル (*Rana ornativentris* Werner, 1903 成・幼)

アズマヒキガエル (*Bufo japonicus formosus* Boulenger, 1883 成・幼)

ヒバカリ (*Hebius vibakari* (Boie, 1826) 成)



写真の撮影年月：2022年7月10日

写真の説明：葛葉川での水生生物観察会の様子



写真の撮影年月：2023年4月14日

写真の説明：くずはの家周辺の草地や学習林

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

葛葉川河岸の横井戸からの湧水の流れ
二次林やその林縁
河川
緑地内に作られた人工の池 に希少種が確認された。

【確認された希少種】

環境省レッドリスト2020及び兵庫県レッドリスト掲載種として、主に、アカハライモリ（*Cynops pyrrhogaster* (Boie)）のほか、3種の希少種（昆虫類、植物、魚類）の生息・生育が確認されている。



写真の撮影年月：2023年4月11日

写真の説明：人工の池で捕獲したアカハライモリ

生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、地域の動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

冬鳥、夏鳥の飛来地としても利用されているほか、秦野盆地内の市街地に島状に存在する緑地であることから、渡り鳥の休息場所としての利用が多く見られる。また近隣の山麓で繁殖する猛禽類の採餌場所となっているほか、タヌキやアナグマなど市街地と行き来していると思われる哺乳類やニホンジカなどの繁殖場所や隠れ家となっている。

【対象となる動物種】

- クロジ (*Emberiza variabilis* Temminck, 1835 成体)
- ルリビタキ (*Tarsiger cyanurus* (Pallas, 1773) 成体)
- キビタキ (*Ficedula narcissina* (Temminck, 1836) 成体)
- ニホンアナグマ (*Meles anakuma* Temminck, 1842 成体、幼体)
- ニホンジカ (*Cervus nippon* Temminck, 1836 成体、幼体)
- オオタカ (*Accipiter gentilis* (Linnaeus, 1758) 成体、若鳥)
- ヒレンジャク (*Bombycilla japonica* (Siebold, 1824) 成体)
- エゾビタキ (*Muscicapa griseisticta* (Swinhoe, 1861) 成体)
- マミチャジナイ (*Turdus obscurus* Gmelin, 1789 成体)

【動物が利用している生活史】

- 越冬：クロジ、ルリビタキ
- 繁殖：キビタキ、ニホンアナグマ、ニホンジカ
- 採餌：オオタカ
- 移動（渡り）：ヒレンジャク、エゾビタキ、マミチャジナイ



写真の撮影年月：2023年4月11日

写真の説明：斜面林に群れでやってきたヒレンジャク



写真の撮影年月：2022年6月22日

写真の説明：アライグマ用の箱罠にかかったニホンアナグマ幼獣

生物多様性の価値

価値（9）既存の保護地域又は自然共生サイト認定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、緩衝機能や連続性・連結性を高める機能を有する場

【場の概況】

秦野盆地を形成する丹沢山地と大磯丘陵（渋沢丘陵）の中間に位置する。丹沢大山国立公園の三ノ塔に源を発する葛葉川が、緑地中央を流れ蛇行した峡谷となり、その両岸に河畔林を形成している。

【隣接・接続する保護地域等】

丹沢大山国立公園、神奈川県立自然公園、自然環境保全地域に近接し、河川によって接続している。

【緩衝機能や連続性・連結性の機能】

野生動物の移動を可能とするネットワークの骨格である緑地内を流れる葛葉川が、丹沢山地との連続性をもち、生物多様性のネットワーク化を果たしている。丹沢山地から大磯・照ヶ崎海岸（神奈川県天然記念物）に海水を飲むため飛来するアオバトが、休息地として利用する。



写真の撮影年月：2012年9月26日

写真の説明：丹沢山地と照ヶ崎海岸の移動途中で葛葉緑地に寄って休息するアオバト

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容

【管理計画の内容①】

「くずはの広場管理計画」を策定し、基本方針、ゾーン別の管理方針、対象種別の管理方針を定め、職員間で共有するとともに、モニタリング調査及び管理方針に基づいた整備作業を進めることにより適正な保全が行われるよう努めている。

主な管理内容

樹林：ナラ枯れや立ち枯れ木などの伐採のほか市街地と隣接する場所での強剪定などの管理を定期的に行う。伐採した樹木を薪や楢木にし、活用する。

草地：樹林への遷移を防ぐため年に1～2回モザイク刈り（昆虫類の生息場所の確保）または全面草刈りを行う

学習林：冬季及び雨季に剪定を行い、高木化を防ぐ。観察しやすい樹形にする。

湧水路・池：環境が維持されるよう、浚渫や水路の整備を年1回行う。

広場全域：ヤマビルが増えないよう、冬季に落ち葉かきを行う。

管理計画は5年ごとに見直しを行い、現状に即した管理が行えるよう改定を行っている。

【管理計画の内容②】

「くずはの家活動指針」を策定し、くずはの家の活動目標を定め、自然観察会などの文化的サービスや保全活動に伴う供給サービスなどの生態系サービスを効果的に行えるようにしている。行政や、支援団体、外部団体等との連携や役割についても明確にし、様々な協力体制のもと活動を行えるよう明記している。

活動指針は5年ごとに見直しを行い、現状に即した活動が行えるよう改定を行っている。

その他

2013年度より環境省のモニタリングサイト1000里地調査に参加し（サイト番号S198）、調査及び記録を行っている。

<参考資料>

くずはの広場管理計画 くずはの家活動指針

モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】

くずはの家職員：植物、野鳥、昆虫、
モニ1000：植物、野鳥、チョウ、哺乳類、ホタル類、カエル類、人為的インパクト（植生図）

【モニタリング場所】

主に葛葉緑地内の散策路沿いのエリア、河川沿い

【モニタリング手法】

ルートセンサス、採集調査（昆虫類）、赤外線カメラを利用した調査(哺乳類)

【実施時期及び頻度】

実施時期は通年及び活動期（チョウ類）

実施頻度はくずはの家職員が行う植物・昆虫調査は月1回、鳥類、その他の動物は随時。モニ1000で行う調査は月1～2回。

【実施体制】

くずはの家職員による調査と環境省のモニタリングサイト1000里地調査（上記モニ1000と表記）に則り、ボランティア団体「くずはの家 えのきの会」と職員とが合同で行う調査がある。

<参考資料>

2021年度モニタリングサイト1000里地調査報告書
生物多様性指標レポート 2020
環境省自然環境局 生物多様性センター
S198葛葉緑地 付録-182